

「0→1」(無から有を生む)を原点とし、 創業以来不変の理念である「創造 貢献」をモットーに、 カシオは社会と共に進化し続けます

創立50周年

「自分たちの手で最も理想的な機能を持つ計算機を作ろう」。私達兄弟は、歯車を用いて計算をする機械式計算機しかなかった時代に、電気回路だけで計算を行う計算機の開発に着手しました。そして7年の歳月をかけて、世界初の小型純電気式計算機「14-A」を開発し、カシオ計算機を設立しました。

ちょうど今から50年前の1957年6月のことでした。この創業年度の決算は、リレー計算機の販売台数が19台であり、売上高は570万円と記録されています。

以来、カシオは「創造 貢献」を経営理念として、「人々の気づかなかった潜在的なニーズを掘り起こし、それを独創的でありながら身近な製品やサービスとして提供する」という、「普遍性のある必要」を創造することに努めてきました。これまでカシオが送り出してきた製品には世界初や世界一が多いのはこのためです。そして、こうした製品開発を通じて「新しい生活や文化を創造する」ことに価値をおいてきました。

50年後の現在、カシオは世界140カ国に年間1億数千万台の製品を供給しています。そして2006年度の連結売上高は6,207億円、営業利益は480億円と、

いずれも過去最高を更新しています。

これもひとえに、製品をご愛顧いただいている消費者の方々、カシオの事業や将来性を信じて投資してくださる株主や投資家の方々、製品作りと販売を支えてくださるお取引先及び販売店の方々、そして製品を開発し世に送り出してきた従業員の皆さん、その他カシオに関連する多くの皆様のお陰です。

まさしく、多くのステークホルダーの方々を支えられて、カシオは今日を迎えることができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

次の50年に向けて

これまでの50年がそうであったように、カシオはこの先の50年も、社会に役立ち人々に喜びと感動を提供する企業であり続けたいと考えています。同時に、持続可能な地球社会の一員として、ますます増大する社会からの期待や要請にこたえ、企業価値を向上させると共に、真に社会から必要とされる企業を目指していきます。そのために、次に掲げるコミットメントを誠実に遂行することにより、磐石の経営基盤を構築していきます。

- 創業以来の不変の理念である「創造 貢献」を実現するために、「カシオ創造憲章 行動指針」を順守します。
- 経営理念を体現し、常に進化し続けると共に、革新的なモノづくりを通じて社会に貢献し続けます。
- コンプライアンスを基本としつつ、効率的で合理的な内部統制体制を構築し、経営の透明性を高めると共に、企業価値の向上に努めます。
- 社会からの要請を敏感に感じ取り、日常の事業活動に取り込むと共に、本来の事業活動を通じて地球社会のさまざまな問題解決に取り組めます。
- 事業活動のあらゆる側面における環境イノベーションを追求し、サステナブルな地球社会の形成に貢献します。
- あらゆるステークホルダーとの相互コミュニケーションを充実させ、更なる経営の透明性を追求します。

こうしたCSR経営を推進することにより、企業の継続的な成長と地球社会の持続可能性を高い次元で満足できるよう、最善を尽くして取り組んで参ります。



代表取締役社長 梶尾和雄